

名古屋市教育委員会 様

名古屋市立吹上幼稚園長  
小出 以都世

## 令和5年度 学校評価報告書

学校教育の 努力点(主題)	心を動かして生き生きと生活する幼児の育成 ～伝える、伝わる、つながるうれしさを通して～	IV
------------------	--	----

## 1 実践のねらい

今年度は、幼稚園での友達との生活の中で、自分の思いを素直に伝えたり思いが伝わるうれしさを感じたり、思いを伝え合い友達と気持ちがつながる喜びを感じたりできるようになってほしいと願い、幼児が友達との生活の中で葛藤を感じながら心動かしている場面を丁寧に捉え、友達と気持ちがつながる喜びを感じて生き生きと生活するために必要な教師の援助について考え実践していった。

## 2 実践のねらいに迫るための手立て

- ① 幼児が相手の思いや考えに触れて心を動かした場面や葛藤した場面を記録し、幼児の心の動きを丁寧に読み取る。
- ② 研究保育や事例研究を通して、幼児が思いを伝え合い友達とつながる喜びを感じるための教師の援助について追及し、次の実践に生かす。
- ③ 月のたよりやドキュメンテーションを保護者に配信したり、掲示物やHP、未就園の会などを通して地域にも本園の取り組みを紹介したりし、幼児教育への理解が深まるよう努める。

## 3 実践の内容

## 実践よりわかったこと

3歳児は、特に家庭との連携も大切にしながら関わっていく必要がある。そして、なかなか自分の思いを言葉に表せない3歳児は、表情を読み取り思いをくみとったり言葉にしてあげたりして教師と気持ちをつなげていく関わりが必要である。

4歳児は、1人1人への願いをもち、姿を捉え手助けしていくことが大切。楽しい心動く遊び、友達の楽しく遊ぶ姿があることで、刺激を受け思いがあふれ、言葉を発し動き出すきっかけとなる。4歳児は、特に友達への関心が広がっている時期なので、幼児同士をつないでいく関わりが必要である。

今年度の5歳児は、気持ちが向いていないと友達への関心も薄く、互いに気持ちがうまく伝わらないゆえにトラブルになることが多かった。互いのことを分かり合える一つ的手段として全体の場でサインージュを使って自分のこと（気づき、発見、がんばったこと、楽しんだこと）を伝えることは、友達をよく知るきっかけとなる。自分を振り返り認めることにもつながる。いろいろなことに関心を寄せ、共通の楽しい経験の中で自分なりに思考を巡らせたり、心を揺らしたりして、クラス全体として一人一人が自信をもって仲間と関わり互いに認め合う関係を築けるよう支えていくことが大切である。

## 4 成果と課題

研究を通して、子どもたちへの“伝える伝わるつながるうれしさを感じる”ための関わりを今年度の各年齢に応じて考えることができた。今後も幼児が心を動かしている場面を丁寧に捉え、教師間で幼児への関わりを話し合っていきたい。そして、幼児同士があたたかな関係の中で心つながっていくうれしさを感じられるように実践していきたい。

保護者アンケートでは「幼稚園は、子どもの興味や関心、思いを大切にされた保育をしている」という項目が高くなり「子どものやりたい事に寄り添っていただけてとても感謝している」「先生方が子ども一人一人の様子をととても丁寧にみてくださっていると思う。また、それを、保護者に上手に伝えてくださることが日々の育児にも役立っていると感じる。いつも親と子双方に寄り添う保育をしてくださり本当にありがたい」などの意見があり、幼稚園の教育に対しての理解の深まりを感じる。自己評価結果においても、同様に「一人一人の思いに応じた丁寧な援助をしている」という項目が高くなっている。また、学校関係者評価においても「恵まれた環境の中でのびのびと過ごし、想像力・創造力を養っていく吹上幼稚園の子どもたちは幸せです」などと高評価を得た。

## 5 来年度に向けて

地域の子育て支援の拠点となるという役割を担う公立幼稚園は、幼児だけでなく家庭にも様々な関わりが必要とされてきている。吹上幼稚園においても、支援が必要な子ども、国や言葉も違う家庭も増える中、さらに一歩進んだ援助が必要となってくる。教師は1人1人違う幼児の個性に向き合い、教師同士が互いに情報交換し連携することがさらに重要となる。そして、気持ちがつながるあたたかな関係の中で、多種多様な家庭を支えて保護者や地域と連携して幼児の育ちに関わっていきたい。